



一般社団法人
宮城県理学療法士会
ニュース 2021 No. 1
(通巻167号)

目次

卷頭言	1
協会理事に就任して	3
宮城県理学療法士会組織改正	4
第12回一般社団法人宮城県理学療法士会定期総会	7
会費について 財務局からのお知らせ	7
第1回MPTA会員ミーティング報告 及び第2回のご案内	8
事業局からのお知らせ	9
新プロ履修および 新生涯学習制度への移行について	9
臨床実習指導者講習会について	11
社会局から ～コロナ禍における事業開催について～	12
福島県沖、宮城県沖地震に関して	13
第39回東北理学療法学術大会	14
第24回宮城県理学療法学術大会・開催報告	16
E-nudge委員会からのおしらせ	22
東京オリパラ推進委員会からのおしらせ	23
Member's Voice	25
宮城県リハビリテーション専門職協会より	27
宮城県理学療法士連盟 活動報告	30

巻頭言

「やるべきこと」をマネジメントする

会長 渡邊 好孝

【感染症の中で】

「新年度を迎える頃には、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)も収束に向かうだろう。」そんな淡い期待は裏切られ、令和3年度はスタートしました。

不要不急の外出自粛や対人接触機会の低減の継続によって、例年の各種行事は昨年度と同様に開催中止もしくは縮小されています。同じ空気を味わいながら、ともに心機一転する機会が減少し、デジタル空間でのニューノーマルな状況には、誰もが寂しさを感じていることだと思います。

これまで、COVID-19への対応策として「できることは何か」「やるべきことは何か」と全世界が取り組んできました。ワクチン接種も開始され明るい兆しとなりましたが、人類の反撃に猶予を与える進化生物学的にウイルスが変異していることが気がかりでなりません。

イギリス型・南アフリカ型・ブラジル型・新型ウイルス(SARS-CoV-2)などの変異株に対し、現在のワクチンが効果的に作用するか否かは明白ではないようです。原因と結果の因果関係が明確になるまでは油断できない状況が、しばらくは続きそうな気配です。

ともあれ、ワクチン接種率を上げること(集団免疫の確立)が人類の喫緊の課題です。

ワクチンは、接種すれば完全に感染を防げる万能な封じ手ではないとはいえ、この壊滅的なパンデミックを収束へ向かわせ、規制や制限の多い閉塞的な生活から一刻も早く抜け出すための重要な手段であると思います。

【新入会員の皆様を迎えて】

さて、新たに理学療法士となられた皆様「おめでとうございます」。また、転入された皆様「ようこそ宮城県に」。宮城県理学療法士会は皆様を歓迎いたします。これまでと環境も変わり、何かと大変な日々を過ごされているかと思います。専門職としてやりたいこと、求められることに対して「できること」は限られているかとも思います。

やがて職場や暮らしの環境には慣れてくるものですが、できることを単に“こなしている”だけとなってしまっては、職場や所属する組織内では自分本位の都合を繰り返している人に過ぎません。

【自己啓発と相互啓発】

平凡であることは、魅力的な価値が低くなっているとも言えますが、自分では上手くいっていると思いがちです。無自覚状況から自覚を促すのは上司の役目ですが、上司ですら、そのことを忘のがちです。魅力的な仕事を創造するための変化(innovation)を怠っては、組織と個人の成長は起こりません。

ぜひ、新しい方法や考え方を積極的に取り入れて、新たな価値を生み出し続けていくことに目を向けてほしいと思います。

日々の目の前の業務をこなすだけではなく、職場や宮城県理学療法士会の皆の力を結集し、一人ひとりの存在および輝きを大切に、各自の持ち味を生かしながら、自己啓発・相互啓発を図り、よりよい職場環境・組織風土を創出していきましょう。

【感情の波を乗り越える】

人間的な成長は“自分が置かれている環境が外部からの変化を強いられている時”とも言われています。まさに、コロナ禍の今がわかりやすい例かもしれません。

未来のために「やるべきことをマネジメントする」。つまり、未来のありたい姿・あるべき姿(目的:戦略)の実現に向け、できるとの価値を高め続ける(目標:戦術)ことです。ありたい姿とそれを実現するための価値づくりを止めないことです。

“学習を止めない、練習を止めない、変化を止めない”ことが“慣れとズレ”的マネジメントに繋がります。

これまでと異なる環境に自発的に身を置かれた皆さん、新しい環境が、自分との感情の波にズレがあったとしても、好奇心を持って波に立ち向かい乗り越えてください。

感情の波を乗り越えたときに“幸せ価値”は生まれるのかも知れません。

存分に力を発揮できる環境を共につくってまいりましょう。

【幸せ創造のマネジメント】

自分が望む価値づくりのためには、現在の社会状況と未来の社会づくりをしている政治に強い関心を向け行動することが大切です。

なぜなら、人間社会を変化させているのは政治そのものだからです。政治力によって理学療法士が描くありたい姿も実現されるのです。

「“やるべきこと”とは、目的と目標であり新たな価値づくり」と理解はしていても、能力があっても行動していないことや、能力が低いために行動できないことはあります。

これらをリストアップして書き記し、幸せな感情になれるものから行動することも、幸せ創造のマネジメントになると思います。(簡単なことから行うことではありません。乗り越える価値の高いものに取り組むことです)

善き未来社会づくりには、理学療法士が“やるべきこと”が沢山あります。私たちが

協会理事に就任して

日本理学療法士協会理事の4期目にあたって

日本理学療法士協会理事
藤澤 宏幸

時の経つのは早いもので、先日、ある歌番組を観ていたら、星野源のドラマ主題歌「恋」が5年前のものだと知って腰を抜かすほど驚きました。どおりで私の眉毛に白いものが目立つようになったはずです。初めて理事に立候補したのが平成25年(2013年)で、今から8年前になります。一度は苦杯をなめましたが、日本理学療法士学会を軌道にのせるという使命感がありましたので、あきらめずに日本理学療法士協会(以下、協会)の仕事を続けることにしました。その甲斐あって、次年度には日本理学療法士学会分科学会は法人化され、歴史的な転機を迎えることになったのです。

私は長年、協会の学術活動に携わってきました。その過程のなかで日本理学療法士学会の立ち上げに関わりました。協会は予てより学術を発展させることによって職能との両輪を大きくすることを考えておりました。いよいよその時期がきたということです。日本理学療法士学会は、法人格を有する12学会の連合体として、(一社)日本理学療法学会連合となります。医療専門職のなかでこのような大きな連合体を形成するものは日本医師会を除いて他にはありません。協会員一人一人が学樹活動を大切にしてきたことが、このような学会の発展を可能にしたのであり、そのことを誇りに感じ、さらに大事に育てる意識が重要になることだと思います。

さて、私は引き続き、日本理学療法学会連合と協会の橋渡しとなって、両輪が同期しながら回るよう調整役に徹したいと思います。その一方で、宮城県における学術活動を見てみると、協会員の増加に見合った活性化が図られているとはいえない状況にあります。理学療法士という仕事を大事にするのであれば、学術活動は欠かせないものであります。宮城県士会員一人一人が自己の研鑽につとめ、積極的に学術大会で日頃の臨床における成果を発表することが求められています。“よき臨床家はよき研究者”でもあるはずです。

臨床と研究は基本的には同じであり、臨床家は常に科学的手法をもって日々の業務にあたっていると思います。すなわち、理学療法評価を行い、対象者の障害構造の仮説を立て、演繹法により確からしさを検証する。障害構造を確定させた後には、対象者のニーズおよびホープを考慮しながら理学療法プログラムを立案し、実践する。予想した効果が得られなければ、仮説を変更し、あらためてプログラムを立案する。まさに科学的手法によって臨床業務は行われているわけです。そうであるならば、症例発表は特別な疾患でなくとも臨床家であれば出来なくてはおかしいのであり、宮城県理学療法学術大会、東北理学療法学術大会は格好の情報共有の場となるのではないかでしょうか。

私は理学療法士という仕事に出会い、自分を成長させることができました。また、そう思えたことに感謝するとともに、少しでも理学療法の発展のために貢献したいと心から思っております。他者に強要することではありませんが、一人でも多くの理学療法士が協会、学会の発展のために、自分に何ができるのかを考えてほしいとも願っております。人任せではつまらないではありませんか。共に手を携えて、明るい未来を切り開けるならば、何より嬉しいことだと思うところです。

宮城県理学療法士会組織改正

「新たな皆さんの10年に向けて」 ～組織改定、定款・定款細則の変更について～

組織検討委員会委員長
榎 望

組織検討委員会は、令和3年宮城県理学療法士会定期総会において、「組織改定」・団体の基本的規則である「定款」・定款を補完する「定款細則」の変更を審議事項として提出する予定です。

これらは、宮城県理学療法士会の置かれた立場や社会的な期待、そして理学療法士のSustainability(サステナビリティ=持続可能性)などを元に議論した“MPTA 新時代構想会議”的提言を受けて作成されました。

組織改定案については別刷りをご覧ください。皆さんはどの辺りに目が留まりますか？ 支部(ブロック局)の数が大幅に増加しており、委員会も増えています。名称変更された部も多く、更に関連団体も組織図中に組み込まれています。

組織改定と定款・定款細則の変更には、3つの大きな意図があります。

①協会組織との整合性を図ること

定款・定款細則は一般社団法人取得(平成21年)後変更していませんでした。その間協会は公益社団法人となり、各種手続きを紙での申請からマイページ上の変更とし、クレジットカードによる会費納入を基本にしました。

今後は各分科学会が法人化され、生涯学習プログラムも大きく変更されます。これらの変化に対応できるよう、県士会の枠組みを変える必要がありました。

②地域の機能や役割を高めること

活動が本格化し始めた地域包括ケアシステムや、次の概念である地域共生社会の構築、いずれも“地域”が単位となっています。この社会変化に対応するために、各保健福祉事務所・支所毎(仙台市は区毎)に支部化し、よりきめ細かい対応を進めていくよう組織を改めます。

目指すのは各支部に県士会の事務局・学術局・社会局等の各機能が備わることですが、支部内の会員数にはバラつきがあって最初から全ての役割を担うのは難しいかもしれません。隣接する複数の支部で協力して研修会を開催したり、調査協力することも想定しています。また各支部には支援担当理事が配置され、支部活動へのサポート体制を敷きます。

将来を見据え、数年かけて地域が活性化していくことを目指します。

③社会の求めに応えられる組織づくり

私達の強みを対外的にアピールするに際し、自分達を理解していないと十分な訴求効果は得られません。どの地域に資格を持った会員が住まわれているか、どのような領域で就労しているのか、どんな活動を行っているのかなど、会員管理システムだけではわかり得ない情報も把握する必要性があります。

その意味で新設の組織調査委員会や急性期・回復期・生活期の各班、各支部での調査活動は理学療法士の活躍の場の拡大に寄与するでしょう。また県リハ専門職協会からは理学療法士単独では達成しがたい、多角的で規模の大きな活動の依頼があります。

臨床実習の質・ひいては理学療法士の質の向上を目的とした臨床実習指導者講習会は、今後県士会が運営の主導となります。これも大きな意味で社会の求めに応える活動と言えます。

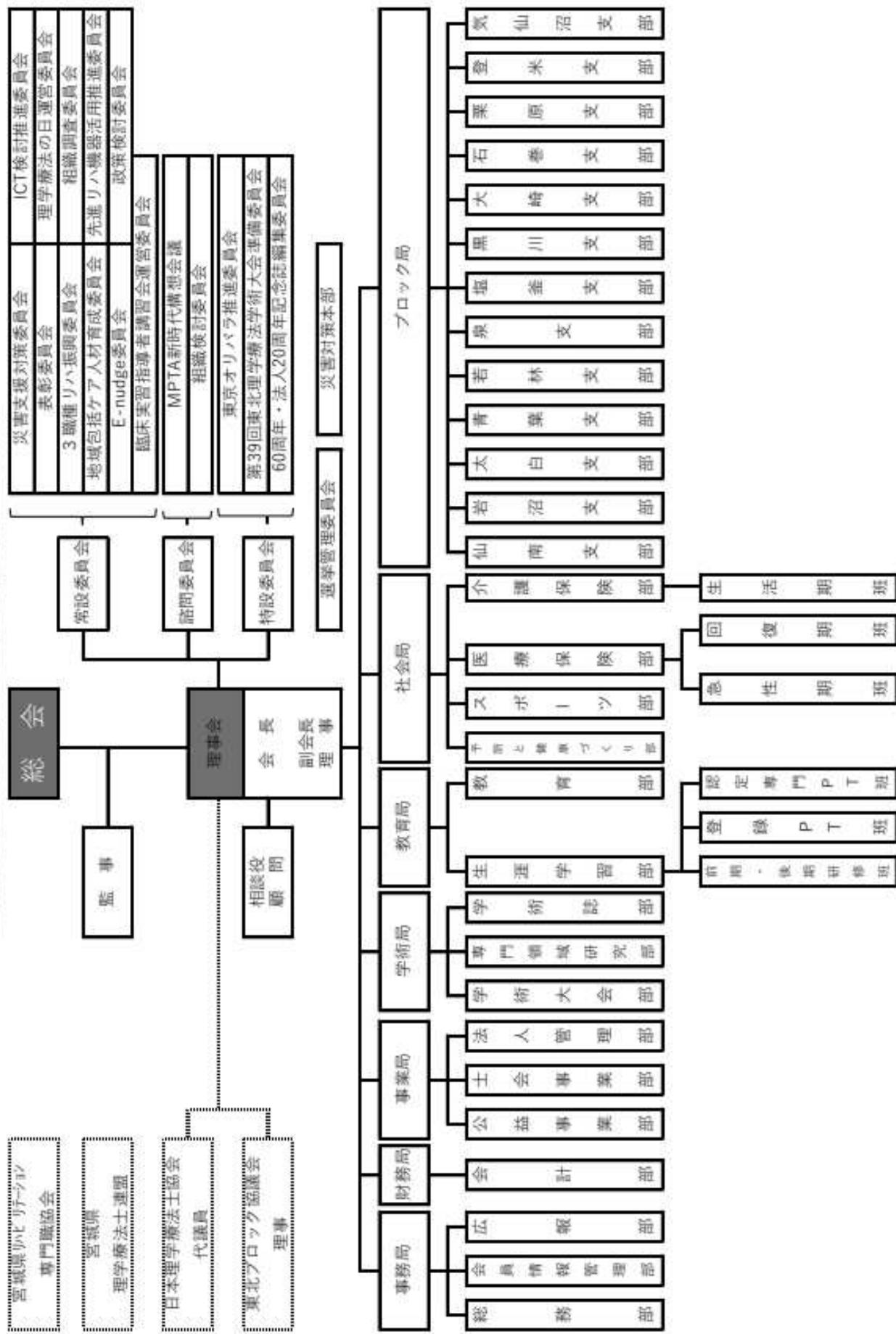
また日進月歩のリハ領域における新しい機器類は、各施設単位では経験する機会が限られるものですが、先進機器活用推進委員会が率先して会員に紹介する機会を設けることで、会員の見地を深め理学療法の有用性を高める活動となる筈です。

災害時における私達の活動もまた、地域住民の生活を支え、健康を維持する上で非常に重要です。今回の改訂を機に、更に組織を整備し円滑な活動が行える枠組みとしました。災害による被害は県内一律であることは稀で、特に仙台圏以外は正確な情報が得られにくい傾向にあります。支部内に情報を収集する仕組みがあり、発信できる体制が整っていると適切な支援計画を立てやすくなりますので、まずは災害対策関連の取り組みに皆さんのが興味を向けていただけることを期待しています。

その他、ITを積極的に利用して遠隔的な研修会を開催しやすくしたり、総会や理事会がネットを利用し法律上開催可能となるように規定を整備しました。定款・定款細則の新旧対応表は総会資料へ掲載しますが、事前に趣旨をご理解いただけますと幸いです。

新たな10年を、皆さんや理学療法士全体にとって、社会に必要とされ自らも満足を感じられる10年にしましょう！

一般社団法人 宮城県理学療法士会 組織図（令和3年度案）



第12回一般社団法人宮城県理学療法士会定期総会

会員の皆様へ

日頃より宮城県理学療法士会の活動にご協力頂き誠に有難うございます。

さて、例年ですと5月末に開催しております定期総会ですが、現在のコロナ禍の状況を鑑みまして、6月末または7月の開催を計画しております。

今回の定期総会では現在の社会的ニーズに対応すべく、組織改正についてもご審議いただく予定です。リモートでの参加も検討しておりますので宜しくお願ひ致します。

正式な日時及び開催案内につきましては、近日中にホームページ及び総会資料の発送にて皆様にお知らせ致します。

ご理解ご協力の程、何卒宜しくお願ひ致します。

会費について 財務局からのお知らせ

財務局 局長
新山 正都

I. 令和3年度会費について

令和2年度の宮城県理学療法士会事業に於きましては、コロナ禍の影響により、提供方法の変更・中止など会員向け事業の計画変更が余儀なくされました。

宮城県理学療法士会といしましては、令和2年度年会費徴収者に対して、令和3年度のみ県士会費を8,000円に減額いたしました。減額は令和3年度県士会費のみで、来年度からは減額前の県士会費に戻りますことをご理解いただけますようよろしくお願ひいたします。

令和3年度の年会費は以下の通りとなります。

令和2年度年会費徴収者【年会費+県士会費(宮城県士会)徴収者】
協会費10,000円+県士会費8,000円=18,000円

新入会員、休会からの復会者、他県士会からの異動者
協会費10,000円+県士会費9,000円=19,000円

新入会員、休会からの復会者におきましては、令和2年度の県士会費を徴収しておりません。また、他県士会からの異動者におきましては、令和2年度は異動前の所属士会へ県士会費が徴収されておりますので、減額の対象外となりますことをご了承ください。

II. 会費未納者について

3月31日時点で年会費徴収者は1,150名となります。協会より3月31日までに年会費の納入が確認できなかった場合(または、休会・退会の申請手続きが確認できなかった場合)は会員資格の喪失により、退会の手続きが開始されます。

会費の納入がまだお済みでない会員におかれましては、会費の納入をよろしくお願ひいたします。

第1回 MPTA 会員ミーティング報告及び第2回のご案内

副会長
村上 賢一

昨春よりLINEによる「MPTA-LINE News」を配信するなど、情報発信については取り組んでいたところですが、新たな情報交換の取り組みとして、2021年2月25日(木)にMPTA会員ミーティングを開催いたしました。近年、公共団体や日本理学療法士協会より周知事項や問い合わせが増加していることや、宮城県理学療法士会として情報共有や各種活動推進などの課題が生じており、情報交換する場を設けることといたしました。第1回目は、県士会活動内容について、「現状」や「課題」を共有させていただきました。結果、多くの参加(54名)と質問をいただき、とても活発な場となりました。ご協力いただきました会員の皆さんに感謝いたします。

さて、何かと慌ただしい時期とは存じますが、第2回ミーティングを開催いたします。今回のテーマは「With MPTA！宮城県理学療法士会の活動をともに！」です。令和3年度に本土会は、11年振りに定款ならびに細則の見直し案、同時に組織改編案の提出を予定しております。当日は、忌憚の無いディスカッションができる場にいたしたいと考えております。ベテランから、新人まで、気兼ねなくご参加下さい。“皆さまと共に”、新年度からの活気ある組織づくりの一歩を踏み出したいと考えております。

【日程】2021年5月13日(木)19時～21時予定(1～2時間)

【開催方法】Zoomミーティング

参加登録要フォーム(<https://forms.gle/fxV6eK38tTvR4docA>)

【プログラム(案)】1. 新時代構想について(渡邊会長)

2. 組織改編について

①定款改定・新組織について(榎副会長)

②事務所紹介・財務状況について(藤野副会長)

【参加者】会員であること。年齢や役職、個人会員、休会会員は問いません。

Zoomに関する問合せ先:

ICT検討推進委員会委員長 小野部 純(東北文化学園大学) onobe@rehab.tbgu.ac.jp

QRコードからも参加申し込みが可能です



事業局からのお知らせ

事業局 局長
櫻井 健太郎

毎年 7 月に開催しておりました全国統一介護予防・健康増進キャンペーンについて、昨年度は日本理学療法士協会主催の各種研修会等の自粛に伴い、開催中止となりました。現在、仙台市でも新型コロナウイルス感染症拡大防止の措置により、対面式のイベント等については当士会活動としても積極的な開催までには至っていない状況です。今後も新型コロナウイルス感染症対策措置を考慮しながら改めて事業計画を立案していきたいと考えております。

併せて交流会事業につきましても新型コロナウイルス感染拡大防止のため 3 密回避を厳守するとともに、事態の終息に伴いまして事業開催とさせて頂きたく思います。

市町村委託事業につきましては、徐々に地域住民による通いの場等の再開がなされております。活動自粛期間中の活動性低下により生活不活発となっている方々が増えているようで、セラピストの派遣事業についても様々な形で徐々に再度ご依頼を頂いている状況でございます。通いの場への講師派遣などの依頼に対してはタイムリーな対応が要求されますので、引き続きご協力お願い致します。

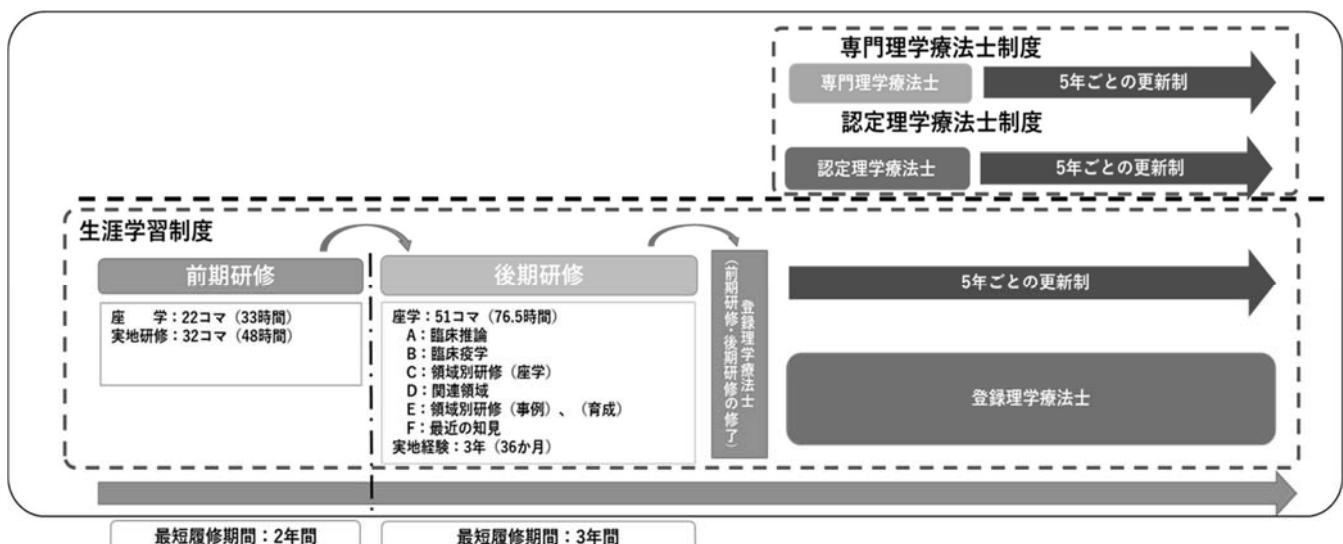
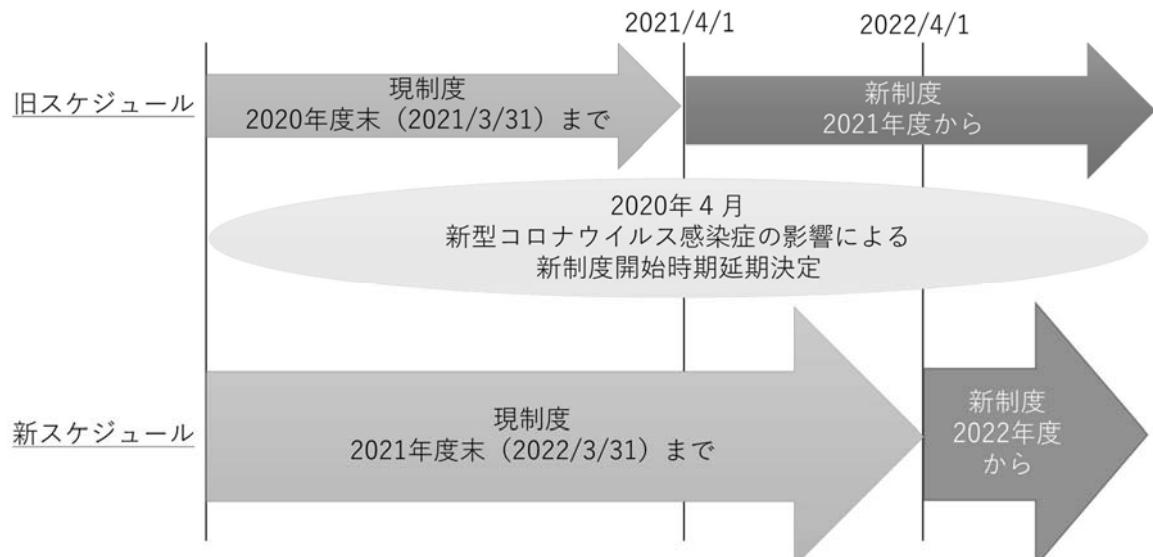
新プロ履修および新生涯学習制度への移行について

生涯学習担当者
村上 賢一

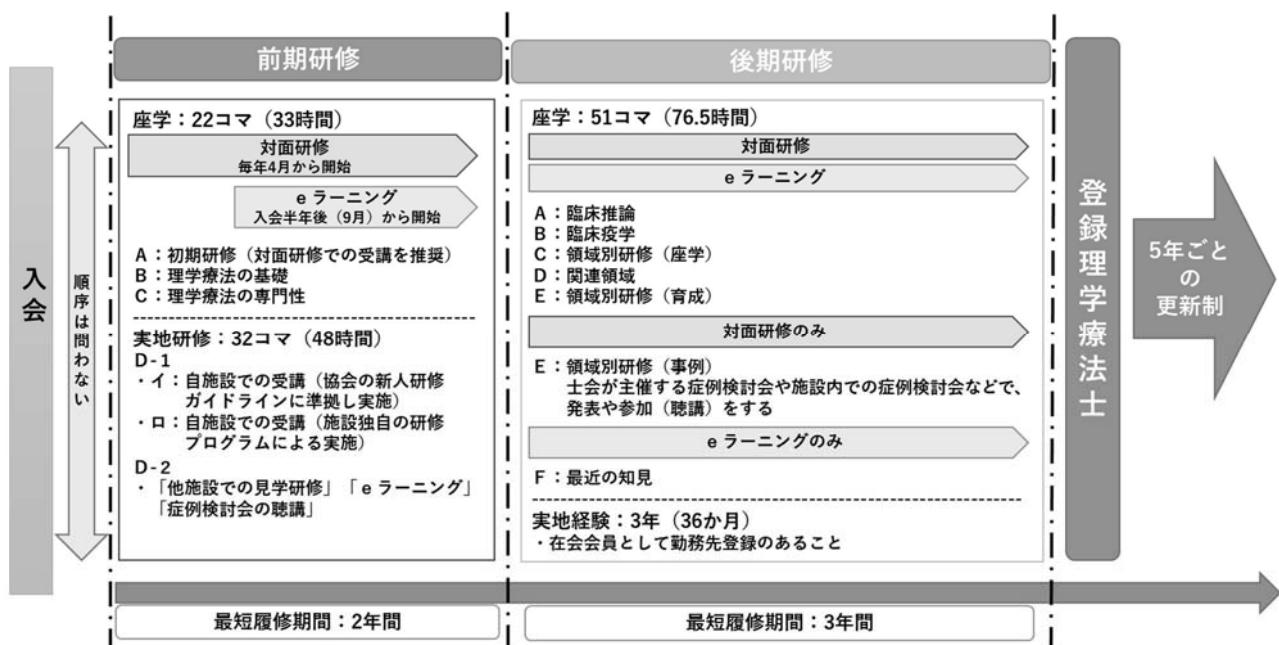
日本理学療法士協会における生涯学習は平成 6 年に開始し、令和 4 年 4 月に改定・施行されます(新型コロナ感染症の影響で1年延期されました)。この改定の目的は、「理学療法士の臨床能力の底上げ」と「努力(研鑽)をした会員が正当に評価される」ことです。そのために、大幅な学習時間の増加が必然的に求められ、外部評価も得られるよう構築しております。

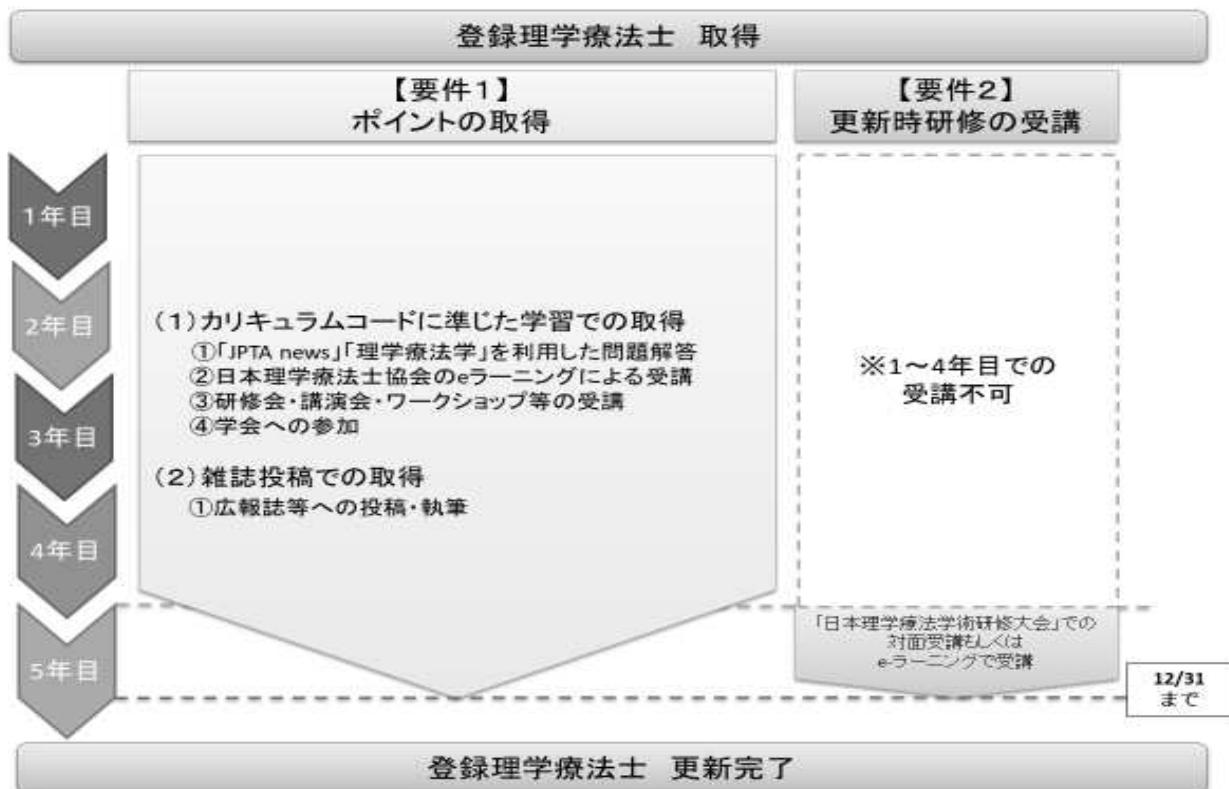
これまで新生涯学習制度への報告を県士会ニュースにて周知してまいりましたが、何度か内容変更があるため最新情報は日本理学療法士協会ホームページにてご確認ください。また、MPTA 会員ミーティングにて新生涯学習制度の説明会開催を計画しております。

宮城県理学療法士会ニュース NO. 1 2021年5月



新生涯学習制度のスケジュールとイメージ図





登録理学療法士取得までの履修イメージと更新までの流れ

臨床実習指導者講習会について

宮城県臨床実習指導者講習会全体協議会
鈴木 誠

2019 年度より県内各養成校において臨床実習指導者講習会が開催され、多くの修了者を輩出することができました。しかし、2020 年度は新型コロナウイルスの影響により県内での開催が行えませんでした。2021 年度については引き続き新型コロナウイルスの影響下にある中で、開催についての検討が進められている状況でございます。また、公益社団法人日本理学療法士協会では、2021 年度下期からの「オンラインでの臨床実習指導者講習会開催」に向けた準備が進んでおります。これらを踏まえまして、県内での臨床実習指導者講習会開催に向けた検討を引き続き進めて参りたいと思います。今後、宮城県理学療法士会 HP においても情報を発信させて頂きます。

社会局から ~コロナ禍における事業開催について~

社会局 局長
阿部 功

社会局では、「スポーツ・健康増進支援部」と「介護予防・健康づくり推進部」を中心に対外的な事業を行っています。しかし、2020 年度は新型コロナウィルス感染症拡大の影響により、事業の中止や内容変更により以下の事業への参加が叶いませんでした。

- ・国際車いすテニス大会「仙台オープン」
- ・東北障害者選手権水泳競技大会
- ・泉レディースフットサル大会
- ・理学療法の日 介護予防・健康増進キャンペーン
- ・仙台市介護予防月間オープニングイベント
- ・耳の日記念手話祭り

一方で、仙台市介護予防月間では市民センターとの共催事業として「転倒予防」、「コロナに負けない健康づくり」、「健康的な歩き方」をテーマとした講演などを行いました。また、事業局事業ではありますが、宮城ダイハツ販売株式会社の主催事業「健康安全運転講座」では、参加者の体調確認、会場における感染対策を理学療法士以外の参集者と協力して実施し、成功裡に終えることができました。

新型コロナウィルス流行により、世界的にフレイルへの懸念が深まっています。十分な医療・介護が受けられない影響や、自身や近親者の感染による心理的ストレスも影響し、対象者の幅が広くなっている現状もあってか、自治体以外からの各種事業依頼も増えています。

会員の皆さんの職場においても、対外事業への参加は大幅に制限されているものと思われます。一方で、病院・施設外において様々な人的交流の場を安全に、何らかの形で継続できるよう、県士会として支援していきたいと考えております。

まん延防止等重点措置が市区町村毎に発令されている現状を見ても、会員も長距離の移動をせずに地域支援ができるような体制整備が必須です。2021 年度以降、社会局、事業局、地区担当局(ブロック)とがさらに連携していきますので、会員の皆様におかれましては可能な範囲で、ボランティア等へのご協力をお願いいたします。



2020年10月29日 ダイハツ×JAF×MPTA「健康安全運転講座」の様子

福島県沖、宮城県沖地震について

令和3年に発生した地震に対する活動報告

災害支援対策委員会 委員長
坪田 朋子

いつも当委員会主催事業にご協力頂きありがとうございます。

また、令和3年2月13日福島沖を震源とする地震・令和3年3月20日宮城県沖を震源とする地震におきまして、被害にあわれました会員の皆さんには心よりお見舞い申し上げます。

この2つの地震後発生後、当委員会では会員の安否および被害状況の確認を行いました。過去の災害では宮城県理学療法士会理事や地区長を中心として電話・メール等で確認を行っておりましたが、今回はさらに宮城県理学療法士会 LINE・HP からのオンライン回答を併用して行いました。2月13日の地震に対しては被害があった場合のみの回答とし、7名の方から回答がありました。3月20日の地震に対しては被害の有無に関わらず回答をお願いしたところ47名から回答がありました。速やかにご回答くださいました皆さんに御礼申し上げます。2月13日の地震に対しては日本理学療法士協会へ見舞金・会費減免の申請が可能である旨、情報提供いたしました。3月20日の地震に対しては現在のところまだ申請の可否は案内がありませんので継続して情報収集に努めて参ります。

今回の活動では、現在宮城県理学療法士会の会員は1600名弱、宮城県理学療法士会 LINEへの登録者数が439名であることから、回答率が非常に低いことが大きな課題となりました。今後、宮城県理学療法士会では災害時の初動対応マニュアルを整備する予定ですので、当委員会からもさまざまな提案を行い、迅速かつ正確に会員の安否および被害状況の確認が行える体制を早急に整えたいと思います。今年度の当委員会の事業として「初動対応訓練事業」を予定しております。訓練には多く会員の皆さんのご協力が不可欠です。詳細につきましては改めてご案内いたしますので、何卒ご協力のほどよろしくお願ひいたします。

第39回東北理学療法学術大会

準備委員長
村上 賢一

第39回東北理学療法学術大会は宮城県理学療法士会が担当となり、運営をしております。現状では、新型コロナウィルス感染症が終息しないなか、様々な開催方法を模索しているところです。みなさんが参加しやすい方法を選択できるようWEB開催と対面開催併用のハイブリッド型での開催を検討中です。5月中には学術大会ホームページや各県士会ホームページにて周知予定となっております。

さて、すでに学術大会ホームページにて掲載しておりますが、大会企画をここでお知らせいたします。みなさんの理学療法士としての知識や技術の幅が広がるよう貴重な体験を用意しておりますので、積極的な参加をお願いいたします。また、学術大会当日は運営スタッフが必要となります。運営担当よりお声がけさせていただくこともありますが、ご協力をお願いいたします。また、運営にご協力いただける場合には、学会事務局までご連絡ください。

大会テーマ:社会的身体から理学療法を再考する

会期:2021年9月11日(土)~12日(日)

会場:トークネットホール仙台(仙台市民会館)

大会長:藤澤宏幸(東北文化学園大学大学院)

事務局:東北文化学園大学医療福祉学部リハビリテーション学科理学療法学専攻

問い合わせ E-mail: 39th.tohoku.pt@gmail.com



〈大会企画〉

大会長基調講演「社会的身体から理学療法を再考する」藤澤宏幸(東北文化学園大学大学院)

特別講演「健康とは何か—新しい健康観と人生—」山崎喜比古(日本福祉大学)

教育講演1「社会的身体から行為を考える」林大造(追手門学院大学)

教育講演2「日本人と尊厳死」伊藤道哉(東北医科薬科大学)

教育講演3「家族形態の変遷」山田昌弘(中央大学)

教育講演4「医療制度の国際比較」大森正博(お茶の水女子大学)

教育講演5「ICFにおける活動の概念-理学療法士モデルとの接点-」内山靖(名古屋大学大学院)

シンポジウム1「看取りと理学療法士の関わり—在宅医療との関りにおいて—」

座長 中田隆文(マリオス小林内科クリニック)

シンポジウム2「地域に生きる理学療法士としての貢献—プロボノの現状—」

座長 渡邊好孝(介護老人保健施設アルパイン川崎)

市民公開講座「日本人は何を大切にして生きてきたのか—日本の国体と将来—」

馬渕睦夫(元駐ウクライナ兼モルドバ大使)

モーニングセミナー「肩関節障害の理学療法(スポーツ領域)」村木孝行(東北大学病院)

治療技術 update1「心臓リハビリテーション」伊藤大亮(東北大学大学院)

治療技術 update2「がんのリハビリテーション」國澤洋介(埼玉医科大学)

治療技術 update3「変形性股関節症の理学療法」對馬栄輝(弘前大学大学院)

治療技術 update4「内部障害の理学療法」佐藤聰見(脳神経疾患研究所附属総合南東北病院)

治療技術 update5「脳血管疾患に対する理学療法の有効性」大畠光司(京都大学大学院)

治療技術 update6「疼痛に対する理学療法の有効性」松原貴子(神戸学院大学)

第24回宮城県理学療法学術大会・開催報告

会期:2021年2月7日(日)

会場:東北文化学園大学+web

大会長:渡邊好孝(医療法人社団光友会、一般社団法人宮城県理学療法士会会长)

大会テーマ:予防から理学療法の未来を共につくる

大会ホームページ:<https://mpta-congress.jimdofree.com>

<プログラム>



【特別講演】

予防を射程に入れた理学療法モデル～ICF をこのまま使い続けていいのか～

講師:藤澤 宏幸 氏(東北文化学園大学大学院)

司会:渡邊 好孝 氏(大会長)

【大会長基調講演】

経営的視点から予防を考える=未来を management する

大会長 渡邊 好孝

司会 村上 賢一(東北文化学園大学)

【教育講演 1】

ストレッ칭アップデート

－ストレッ칭で“予防できるもの”と“予防出来ないもの”－

講師:中村 雅俊 氏(新潟医療福祉大学リハビリテーション学部)

司会:川上 真吾 氏(仙台リハビリテーション病院)

【教育講演 2】

運動器理学療法における超音波エコー検査の活用～適切な治療から予防へと繋ぐために～

講師:平山 和哉 氏(東北文化学園大学医療福祉学部)

司会:黒木 薫 氏(東北福祉大学健康科学部)

【士会指定事業】

地域ケア会議や通いの場で理学療法士に求められる伝えるチカラ

～むずかしいことをやさしく～

講師:坪田 朋子 氏(一般社団法人宮城県理学療法士会理事)

司会:佐藤 大樹 氏(仙台リハビリテーション専門学校)

2021年2月7日(日)に第24回宮城県理学療法学術大会を開催致しました。まずは、このような社会情勢の中でご協力いただきました多くの皆様に厚く御礼申し上げます。

本大会は「予防から理学療法の未来を共につくる」をテーマに掲げ、特別講演1題、大会長基調講演1題、教育講演2題に加え、司会指定事業と20題の一般演題発表を企画・準備させていただきました。講演内容及び研究発表の抄録については、現在でも上記大会サイトで閲覧可能となっておりますので、ぜひご覧いただければ幸いです。

さて、本大会の報告として、以下の4つのトピックに分けて報告させていただきます。

【トピック1】初めてのハイブリッド形式での開催—感染対策を施して—

2020年度、ニュースの中心は「オリンピック・パラリンピック」から「新型コロナウイルス感染症」に取って代わり、医療・福祉の現場はもちろんのこと、行政や教育の現場も感染症対策に追われた1年であったと思います。

このような社会情勢において、学術大会開催の判断は非常に難しいものでした。会員の方からは「会場で発表したい」、「Webには不安がある」、「職場の制限があっても発表・参加できるようにして欲しい」など様々なご意見がありました。そこで、本大会は日本理学療法士協会の開催指針等を判断基準とし、発表者及び参加者のご希望に添える「現地とWeb(Live)のハイブリッド形式」で開催することにいたしました。開催まで時間がない時期の判断となり、皆様にはご迷惑をおかけいたしました。また、柔軟に対応いただきましたことに心より御礼申し上げます。

ハイブリッド開催に向けて、まずはWeb学会の環境整備を行いました。すでに「第25回日本基礎理学療法学会学術大会」や「宮城県士会主催の理学療法士講習会」の開催経験者がおりましたので、そのノウハウを参考にしながら準備を進めました。具体的には、映像を安定して配信できる環境の整備、大会抄録集の電子化、Web視聴状況の監視スタッフの配置などです。初めてのLive配信ということもあり、課題も見つかりましたが、皆様のご支援により大きなトラブルなく進めることができました。

次に、開催会場の感染対策です。受付での検温・手指消毒、除菌シートの設置、講演台へのアクリル板の設置、使用機材の除菌、飲食時の注意アナウンスなど、徹底的に対策を講じました。こちらも皆様のご協力により、大きな問題なく進められたと感じております。

続いて、参加に関する調整です。まず、日本理学療法士協会の開催指針に則り、現地参加者を宮城県内の方に限定させていただき、Web参加については制限を設けずに受け付けました。そして、Web参加の方にはJPTAのマイページのシステムを利用した事前登録をお願いしました。この方法は現地参加者の事前登録としても有効な手段であることが分かったため、次年度以降も利用したいと思っております。また、講師・司会・発表者には「現地発表」と「Web発表」のどちらを選択いただきました。その中で、教育講演1では講師・司会ともにWebからの参加という形式にもトライしました。この方法も感染症対策の有無に関わらず、応用可能な方法であると感じました。

例年と異なる開催方式となりましたが、学術大会部の皆様に柔軟に対応いただきましたおかげで滞りなく開催することができました。この場を借りて、部員の皆様に御礼申し上げます。

【トピック2】学術大会印象記

例年は学術大会部の部長より学会全体の様子を記事としてお伝えしておりますが、今回は実際に参加いただいた方から感想を執筆いただきました。

2021年2月7日(土)に第24回宮城県理学療法学術大会が開催されました。今大会では新型コロナウィルス感染症に対する感染予防のため、現地開催とWeb開催を組み合わせたハイブリット形式が採用されていました。私はWebから参加し、聴講および口述発表をさせていただきました。

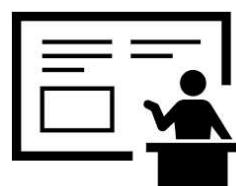
さて、今大会は「予防」、「理学療法」、「未来」を主軸としたテーマで、大会長基調講演、特別講演、教育講演、士会指定事業に加え、一般演題、1年目の理学療法士を対象としたフレッシュマンセッションが行われました。多くの講演・演題に参加しましたが、臨床に出て間もない私にとって、特に印象的だった講演は藤澤宏幸先生による特別講演、「予防を射程に入れた理学療法モデル～ICFをこのまま使い続けていいのか～」でした。

理学療法において患者の全体像を整理する際に使用されている相互作用モデルとしてのICFについて問題提起し、新たに行動制約モデルを提示されました。藤澤先生の講義を拝聴し、学生時代から何も疑わずに使用していたICFが「生活機能モデル＝理学療法モデル」として捉え、理学療法を展開する際に使用していたのではないかと考え直す機会となりました。まずは、生活機能モデルと理学療法モデルの相違を理解し、新たに理学療法モデルとして行動制約モデルを併用していく必要があると学ばせていただきました。

私自身もフレッシュマンセッションで口述発表をさせていただきました。学術大会での発表は今大会が初めてでしたが、渡邊好孝大会長および準備委員の皆さまの準備、運営によりオンライン上でも滞りなく済むことができました。この場をお借りして感謝申し上げます。発表後のご意見、ご助言は今後の臨床業務へ生かしていきたいと考えております。1年目の理学療法士でも発表を行いやすい素晴らしい雰囲気の学会であることを肌で感じたため、次年度はより多くの方が参加していただき、活気のある学術大会になることを期待しています。



仙台リハビリテーション病院
足利 恒平さん
(あしかが きょうへい)



【トピック3】フレッシュマン・セッション

24回大会も20題の演題をご登録いただきました。前回大会に引き続き、新人理学療法士の方を対象とした「フレッシュマンセッション」を企画させていただきました。この企画は、初めての学会参加・発表の時間を有意義に過ごしていただき、明日からの臨床業務・研究活動へより前向きに・積極的に取り組んでもらうことを目的としています。

今回、初めて学会発表を行った新人理学療法士の方からコメントをいただきました。

「学会での発表を経験して」

私にとって、院外での症例報告は今回が初めてでした。抄録作成から発表練習まで何もかもが初めてだった私に、たくさんのアドバイスを下さった指導者の方々には感謝しております。

会場に着くまではとても緊張していましたが、新型コロナウイルス感染症の影響でオンラインからの参加者が多かったため、実際に舞台に立った時にはあまり緊張せずに発表に挑めました。そして貴重なご質問・ご意見を頂き、改めて症例への介入を考え直すことができ、新たな知識も得ることも出来ました。また、発表準備を通して口述発表における見やすいパワーポイントの作成方法を学べたことも、私にとって大きな経験です。さらに、自分以外の症例発表や研究報告、それに対する質疑を聞くことも勉強になり、考え方や興味のある分野を広げる良い機会になったと思います。



医療法人財団明理会 西仙台病院
大友 菜摘 さん
(おおとも なつみ)

24回大会では9名の新人理学療法士の方に発表いただきました。また、その所属先も回を重ねる毎に増えてきております。引き続き、今年度も多くの新人理学療法士の方に発表いただきたいと考えております。

新人理学療法士の指導にあたられている会員の皆様、ぜひ後進育成のツールとしてご活用ください。「学会で症例発表をしてみない?」という声掛けをすることに対し、「部下に負担をかけてしまうことになるのではないか…」と懸念されている方もいらっしゃると思います。しかし、挑戦を「負荷」と捉えるか、「チャンス」と捉えるかは本人次第だと考えます。もし、「チャンス」と捉えるタイプの方であるならば、指導者が紹介しないことにより学びの機会を減らすことになります。若い理学療法士の可能性を広げるために、まずは「挑戦してみないかい?」と企画を紹介いただければ幸いです。きっと、彼らの未来を明るくするきっかけになると考えます。

【トピック4】第23回宮城県理学療法学術大会表彰者

例年、前年度の大会で発表された方の中から厳正な審査を行い、表彰を行っております。今回も第23回大会で発表いただいた演題の中から大会奨励賞2題、新人賞1題が選出されました。

<大会奨励賞>

氏名:五十嵐 直樹

所属:仙台リハビリテーション病院・東北文化学園大学大学院

タイトル:健常者における股関節外転筋の動特性測定

—測定方法および信頼性の検討—



「コメント」

今回は、股関節外転筋の動特性に関して、測定方法の検討に主眼をおいた報告をさせていただきました。臨床現場において、筋の動特性は安全な動作遂行に重要な要素として捉えられてきました。しかし、測定方法、評価指標について統制が取れておらず、未だ現場での実践に至っていない現状があります。そこで今回、臨床応用に向けた基礎データを発表させていただきました。今後は、障害者を対象とした研究へ展開し、臨床現場で指標とできるような筋の動特性に関するデータの提示や、動特性と動作能力との関連について研究を進めていきたいと考えております。

最後に、日頃より協力して下さっている職場の方々、大学院の仲間に感謝を伝えたいと思います。

氏名:高橋 蓮

所属:国立病院機構仙台医療センター

タイトル: 病前ADL自立していた高齢心不全患者における

退院時ADL非自立を予測する因子の検討



「コメント」

この度は、大会奨励賞を頂き、大変光栄に思います。本邦では、高齢化の進行に伴い、高齢心不全患者が増加しております。そのため、入院を契機にADLが低下する症例も少なくありません。今回の研究は、心不全患者の退院時ADLを予測し、ADLに対して早期アプローチするうえで重要だと考えます。現在は、さらに研究が進み、心不全患者の退院時ADL自立を目指した心臓リハビリテーションのゴール設定が明らかになりました。心不全患者の予後改善のため、今後より一層の努力を重ねていきたいと思います。この度は誠にありがとうございました。

＜新人賞＞

氏名：松坂大毅

所属：東北文化学園大学大学院・（現在：イムス明理会仙台総合病院）

タイトル：ストレッチング技術の効果的な教授方法に関する研究：pilot study

-熟練した理学療法士の技術特性-



「コメント」

臨床場面でストレッチングを治療方法として選択される方は多いと思います。そのストレッチングに関する研究の多くは治療効果に関する報告であり、技術特性や習熟方法に関する報告は極めて少ない現状です。今回報告させていただいた実験は、この課題へアプローチした最初の取り組みです。具体的には、理学療法士のストレッチング技術を定量的に測定するためにオリジナル人型シミュレーターを作成し、理学療法士の技術を探索的に検討しました。今後は、理学療法士が暗黙的に実施している技術の特性や習熟方法に関する研究を継続し、理学療法の発展に貢献していけたらと考えております。

今年度も2月上旬に「第25回宮城県理学療法学術大会」を開催する予定となっております。多くの皆様のご参加をお待ちしております。

(学術局学術大会部・部長 鈴木博人)

E-nudge 委員会からのお知らせ

若手活躍推進委員会(E-nudge)・委員長
鈴木 博人

E-nudge(若手理学療法士活躍推進委員会)が発足して一年が経過しました。昨年度はコロナ禍により思うように活動を進められませんでしたが、皆様のご協力により LINE アカウントの普及、オンラインでの新人歓迎会、アンケート調査などを実施できました。心より御礼申し上げます。

以下、3点についてお知らせいたします！



【トピック1】宮城県理学療法士会公式 LINE アカウント

新人理学療法士の方、新入職員の方、宮城県理学療法士会公式 LINE アカウントへのご登録をお願いいたします。LINE アカウントでは、宮城県理学療法士会の活動や研修会のお知らせはもちろんのこと、日本理学療法士協会に関する情報や外部研修会のお知らせもタイムリーに配信しております。ぜひご登録ください！！ 【登録用バーコード】



【トピック2】新人歓迎・交流会イベントの開催

今年度も 5 月 23 日(日)の総会・新人才リエンテーションの夜に交流会イベントを開催いたします！今後、ホームページや LINE アカウントなどで企画をお知らせいたします。その際にはぜひご参加ください！

【トピック3】昨年度実施したアンケート結果の公開

昨年の秋に実施させていただいた Web アンケートの結果について、第 24 回宮城県士会で報告させていただきました。近日中にホームページにも資料を公開いたします。
ぜひご確認ください。

2021 年度の E-nudge ですが、新たなチーム編成にてバージョンアップする予定です！
引き続き、ご協力をお願い申し上げます。

東京オリパラ推進委員会からのお知らせ

『スポーツ』の可能性

東京オリパラ推進支援委員会
千葉 渉

昨年度からの新型コロナウィルスの感染拡大により開催が延期されていた、東京 2020 オリンピック・パラリンピック大会も、ようやく聖火リレーがスタートしました。東京 2020 オリンピック・パラリンピック大会での理学療法サービスのためのボランティアスタッフへは、新型コロナウィルス感染予防策により、オンデマンドでのブラッシュアップ研修が行われ、今後、割り当てられた選手村や各競技会場・練習会場での研修も予定されておりましたが、未だ実施できておりません。また、ボランティアスタッフの勤務シフトも決まっておらず、未だ新型コロナウィルス感染拡大の終息の兆しも見えない中で、本当にオリンピック・パラリンピックが開催されるのか、開催してもよいのか、日本国民だけでなく、世界が注目しているところです。

仮に、東京 2020 オリンピック・パラリンピック大会が開催されたとしても、自国における『スポーツ』に関わるそれぞれの分野のゴールではなく、あくまで通過点に過ぎません。

『スポーツ』は、オリンピック・パラリンピックや、プロスポーツなどの「競技スポーツ」、健康づくりや社交の場として、生涯を通じて、いつでも、どこでも、誰でもスポーツに親しむ「生涯スポーツ」だけでなく、『リハビリテーション』としても用いられてきました。また、『スポーツ』は、「する」「みる」「ささえる」といろいろな形で、誰もが気軽に楽しめるものです。

ストーク・マンデビル病院(イギリス)の医師であったルードウィッヒ・グットマンは、第二次世界大戦で脊髄に損傷を受けた兵士を治療(リハビリテーション)する際に、スポーツを取り入れる方法を用いました。ロンドン 1948 大会の開会式の日に、グットマンは病院内で 16 人の車いす使用者によるアーチェリーの競技大会を開催しました。この競技会が、後のパラリンピックへと育っていき、1960 年にはオリンピックの開催されたローマで国際ストーク・マンデビル大会が開催されました(23 か国・400 名が参加)。

宮城県理学療法士会でも 2002 年(平成 14 年)の、第 56 回国民体育大会および第 1 回全国障害者スポーツ大会でのコンディショニングルーム開設から、これまで、東北障がい者水泳選手権大会、車いすテニス仙台オープン、東北聾啞者体育大会などの障がい者のスポーツ大会、総合型地域スポーツクラブへの支援活動などのサポート活動を行って参りました。

この実績から、この度、一般社団法人宮城県障害者スポーツ協会が主催するプロジェクト(パラスポーツに取り組むアスリートへの支援と、障がい者が一生涯のスポーツとして取り組める環境づくりを目指し、身体に障害をもつ大人たち、子どもたちが、プール体験会を通じ、浮力のある世界を体験することで、障がい者がスポーツや健康づくりに取り組むきっかけをつくるためのプロジェクト。「ささえる」ことでスポーツへ参加する。)に、宮城県理学療法士会は共催することとなりました。

このプロジェクトは、宮城県障害者スポーツ協会、宮城県理学療法士会、宮城県作業療法士会、宮城県スイミングクラブ協議会、一般社団法人宮城県水泳連盟、東北身体障がい者水泳連盟、

一般社団法人 MOTTO と連携し、身体障がい者へのプール体験会を、毎月 1 回開催する予定でいます。

県士会員で水泳を行った事がない方や、障がい者へのサポート活動を行った事がない方も参加可能です。また、必ずしも水着になり入水する必要はありません。身体に障害をもつ方が、水に入り浮力を感じること、また、浮力を利用し運動することで新たな変化や可能性に、障がい者だけでなく、リハビリテーション専門職である我々も気づくための取り組みと捉えていただけすると幸いです。もしかすると、それまでの固定観念を打破するきっかけになるかもしれません。

ルードウィッヒ・グットマン医師は次のような言葉を残しています。

「失われたものを数えるな、残っているものを最大限に活かせ!」

“It's ability、not disability、that counts”

この言葉は、リハビリテーションに携わる我々のみならず、障がいのあるなしに関わらず全ての人にとって、大切なことを示唆していると思います。それは、たとえ何か失って出来なくなったりしても、諦めず工夫することで出来るかもしれない。一見無理だと思われることでも、今出来る事、残されているものを最大限に活かすことで、出来るかもしれない。失ったものがあったとしても、まだできる事がきっとあるはず。という、希望を捨てず、困難なことにも、諦めず挑戦し続けることが、心身の健康のみならず、社会や世界の平和・心の豊さに繋がるのではないかでしょうか。

「障がい者へのプール体験プロジェクト」にご興味のある方、参加ご希望の方は、是非お気軽に下記連絡先へご連絡ください。

【連絡先】

宮城県理学療法士会 スポーツ部 千葉涉 宛

mpt.sports2002★gmail.com(★を@に変更してご使用ください)

Member's Voice

今回特集として、お二人の士会員の方に執筆して頂きました。

お一人目は出産を経て、この春から職場に復帰された仙台循環器病センターの野村 菜美子先生です。現在女性活躍推進が進められて中、医療(特に理学療法)分野で感じられることや産前の職場からのフォローや対応など、またこれから結婚や出産、育児を始めていく女性 PTへのメッセージを頂きました。

お二人目は昨年4月入職し、このコロナ禍で大変な一年を過ごされた石巻健育会病院の佐藤駿先生です。入職する前思い描いていた臨床との違いや、一年間を通してコロナのため出来なかったこと、大変だった事などについてご寄稿頂きました。

<出産後の職場復帰にあたり>

仙台循環器病センター
野村 菜美子

初めての妊娠で子供を授かれた喜び半面、理学療法士の妊婦は妊娠期のトラブルが多い傾向がある等、仕事に対する不安はありました。

職場には妊娠が分かった時点で報告し、業務内容の軽減や担当患者数、患者の重症度に配慮して頂きました。また、妊娠後期には長時間の立ち仕事や移動でお腹の張りを感じるようになり、休憩できる場所で休みを入れながら働かせてもらう等、妊娠時期に応じてサポートして頂きました。何よりもありがたかったのは、いつでも相談できる環境や職場の雰囲気でした。理解あるスタッフとコミュニケーションをとりやすい職場環境であったため、身体的負担だけでなく、精神的負担も軽減され、妊娠トラブルもなく無事に出産休暇まで働くことができたと感じています。

特に女性は結婚や妊娠、出産、育児など、働き方を見つめなおす機会が多いかと思います。私自身も仕事復帰後はフルタイム勤務から時短勤務に変更して働かせて頂きます。大変ありがたいことに、「お互い様だから…」と育児にも理解のある環境ではありますが、ただでさえ業務時間が限られている状況で、急に休まなければならない日が出てきたりと、どれ程職場スタッフに負担をかけてしまうだろうかと正直負い目を感じる部分もあります。しかし、今までの自分中心の働き方から子供中心の働き方になるかと思います。どんな職場環境であれ優先順位を明確にし、ひとりで抱え込まずに職場や家庭とコミュニケーションをとっていくことで働き方を摸索し、職場環境をスタッフと築いていくことが大切だらうと思います。



<コロナ禍での社会人1年目>

石巻健育会病院
佐藤 駿

私たち 20 年卒世代は新型コロナウイルス感染症が全国に拡大をみせていた時期に社会人 1 年目をスタートしました。この 1 年を振り返ると、感染拡大を防ぐために患者様はもちろん、病院職員、医療従事者が多くの制限を強いられていた上で自分に出来る事を模索した 1 年だったと振り返ります。最初の 1-2 ヶ月は社会人 1 年目に対しての不安に加え、コロナウイルスという未知のものへの恐怖心がありより一層責任感やプレッシャーを感じていました。私自身、臨床実習という形で病院での理学療法を経験させて頂きましたが、想像していた仕事より「窮屈さ」というギャップを感じながら 1 年間業務に当たっていたという印象が強いです。

実際場面としては自院でも、面会の中止や患者様・職員のマスク着用、県外移動の制限、初年度研修の中止が病院の取り組みとして行われていたと記憶しています。中でも、マスクの着用下での介入場面は表情や声量が制限され、患者様に自分が意図していた事が伝わるのかといった不安がありました。そのため、私は声色の変化や目元の動き、かける言葉に注意をする事で患者様とコミュニケーションを取ることを実践していました。また、患者様は面会中止やカーテンでの仕切り、大人数での食事制限による精神負担・ストレスも大きかったと思います。人と話をする機会がリハビリの場面しか、ほとんど無いという患者様もいたため多くの言葉を交わしながら介入する事を心がけました。リハビリが患者様にとって、コロナウイルス感染症を一瞬でも忘れられる時間になるように介入していました。

まだまだ、終わりの見えないコロナウイルス感染症やこれから の医療体制に対して不安は当然感じています。しかし、自身が出来る事は自らの健康を保つことで患者様の健康を守り、リハビリテーションを展開していくことに尽きると思います。これからも感染症に対する重圧やストレスがかかると思いますが、自分なりの息抜きをしながら仕事に取り組んでいきたいと思います。2 年目も宮城県での感染拡大を多く耳にするスタートとなりましたが、自身の色を見せられる 1 年にしたいと思い、より一層自己研鑽に励んで参ります。コロナウイルス感染症の早期終息を願い結びの言葉とさせて頂きます。



宮城県リハビリテーション専門職協会より

設立 5 周年を迎えるにあたって

これまで宮城県内の理学療法士会、作業療法士会、言語聴覚士会の 3 士会は、それぞれの職能団体がその特性を生かしながらセラピストの人材育成ならびに地域における介護予防、健康づくりに取り組んでまいりました。

2014 年より、宮城県リハビリテーション支援センターのご協力をいただき、宮城県と 3 士会が協働するための意見交換会の場が設けられました。

2016 年には、宮城県リハビリテーション支援センターのご協力のもと、3 士会合同研修会を開催いたすことができました。

その後、地域包括ケアシステムの推進・深化という観点から、県内市町村からの 3 職種へ対する各種事業の協力要請が増加し、宮城県長寿社会政策課のご指導、ご支援の下、地域包括ケアの理念に基づき、県内 35 市町村のより良い地域づくりに寄与するために、2016 年 7 月に宮城県リハビリテーション専門職協会を設立し、10 月に設立記念式典、講演会を開催いたしました。

現在は、宮城県ならびに各市町村、他団体会からの各種委託事業を受け、各士会が事業の参加者を選んでいる状況です。今後、これまで以上に一般介護予防事業、フレイル対策などの健康支援事業に 3 職種が足並みをそろえて活動すべき事が増加するのは間違いないありません。県民の未来と求められる声に十分に応えるために、本会が独自に研修会の開催、人材育成を行うことも必要であると考えております。

本会は設立から 5 年が経過します。これからも市町村からの各種事業に対する協力要請は確実に増えてまいります。より多くの会員の皆様に、これから事業展開に関心を示していただき、3 士会が県民の皆様の健康づくりと幸せづくりを目指すという共通価値を創造し、社会に貢献してまいります。

下記に、設立記念式典から、現在までの活動を記しましたのでご参照ください。

宮城県リハビリテーション専門職協会

会長 渡邊 好孝

副会長 遠藤 佳子

副会長 大黒 一司

(文責 宮城県リハビリテーション専門職協会 事務局長 櫻井 健太郎)

2016年 宮城県リハビリテーション専門職協会設立

●宮城県リハビリテーション専門職協会設立記念式典

日 時:2016年10月1日(土) 14:00 — 16:00

場 所:ホテルメトロポリタン仙台

御 祝 辞:山田 義輝 様(宮城県副知事)

岡崎 宇紹 様(仙台市健康福祉局次長)

櫻井 芳明 様(宮城県医師会 副会長)

深浦 順一 様(一般社団法人言語聴覚士協会 会長)

森本 榮 様(公益社団法人日本理学療法士協会 常務理事)

藤井 浩美 様(一般社団法人日本作業療法士協会 常務理事)

記念講演:『地域包括ケア推進に係るリハ専門職へ期待すること』

講師:岩名 礼介 様(三菱UFJリサーチ&コンサルティング 社会政策部部長)

上席主任研究員)

ご来賓には、宮城県内の医療・福祉関連団体の会長様をはじめ、県内養成校の先生方、な
らびに多くの関係者にお越しいただきました。その模様は宮城県長寿社会政策課より発行され
ました「宮城県地域包括ケア推進協議会」より“宮城ケアライン”や、宮城県庁ホームページの
ニュースクリップに掲載いただきました。

●設立時役員:会長:渡邊 好孝 副会長:遠藤 佳子 道又 顕

理事:大貫 操 萱場 文 櫻井 健太郎 櫻井 直人

佐々木 宣子 藤野 隆喜

2017年～2020年までの委託・協力事業

●2017年

・仙台市薬剤師会新年会

・宮城県主催 宮城県リハビリテーション専門職合同研修会

・仙台市薬剤師会健康フェア

・仙台市地域リハビリテーション活動支援事業

・仙台市障害者スポーツ協会主催 パラスボ 2017

・多賀城市地域リハビリテーション活動支援事業

・東部保健福祉事務所研修会

・大崎市地域包括ケアシステム推進多職種連携研修会

・第18回介護保険推進全国サミット in いわぬま

・東北大学公開シンポジウム「地域の総合診療を考える～多職種連携と総合診療～」

・厚生労働省主催 介護予防普及展開事業都道府県アドバイザー養成研修

*役員交代 萱場 文 → 佐藤 嶺

●2018年

- ・仙台市薬剤師会新年会
- ・仙台市薬剤師会健康フェア
- ・岩沼市地域ケア会議
- ・仙台市地域リハビリテーション活動支援事業
- ・多賀城市地域リハビリテーション活動支援事業
- ・全国地域リハビリテーション合同研修大会 in みやぎ 2018
- ・仙台市障害者スポーツ協会主催 パラスボ 2018
- ・宮城県主催 ケアフェスタ 2018
- ・仙台市第8回地域包括支援センター研修会
- ・厚生労働省主催 介護予防普及展開事業都道府県アドバイザー養成研修

●2019年

- ・宮城県主催 地域づくりによる介護予防推進支援事業モデル市等との進捗状況に関する情報交換会
- ・仙台市薬剤師会健康フェア
- ・東部保健福祉事務所研修会
- ・岩沼市地域ケア会議
- ・仙台市地域リハビリテーション活動支援事業
- ・多賀城市地域リハビリテーション活動支援事業
- ・仙台市障害者スポーツ協会主催 パラスボ 2019
- ・宮城県主催 ケアフェスタ 2019
- * 役員交代 道又 順 → 大黒 一司

●2020年

- ・仙台市薬剤師会健康フェア
- ・宮城県リハビリテーション支援センター主催 地域リハビリテーション推進強化事業等に係るリハ三士会との情報交換会
- ・仙台市地域リハビリテーション活動支援事業
- ・多賀城市地域リハビリテーション活動支援事業
- ・松島町地域リハビリテーション活動支援事業

宮城県理学療法士連盟 活動報告

宮城県理学療法士連盟会長 羽田智大

2021年3月13日、宮城県理学療法士連盟と自民党・県民会議、医療福祉議員連盟との意見交換会を仙台市のAERにて行いました。ギザの大ピラミッド(146.9m)とほぼ同じ高さの仙台AER(145.5m)の会議室から、悠久堅固で見晴らしの良い関係を願って、以下の議題について話し合いました。

1. コロナ禍における理学療法士の現状について
2. 急性期理学療法提供体制の推進について
3. その他（地域包括ケアシステム/高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施 等）



宮城県理学療法士連盟からは、会長（羽田智大）、副会長（渡邊好孝）、事務局長（高橋一揮）をはじめ、役員7名が参加。自民党宮城県連からは、県議会議長の石川光次郎県議はじめ、医療福祉議員連盟会長の村上智行県議、さらに幹事長（菊地恵一県議）、総務会長（中山耕一県議）、政務調査会長（佐々木幸士県議）三役の先生方など総勢9名の方にご参加頂き、理学療法士が抱える課題、要望等について熱心にお聞き頂きました。地域の医療福祉を担う、責任ある専門職としての期待も議員の皆様から感じることができました。

今後も定期的に会合を開いていく予定です。そして現場の声を伝えるとともに、各審議会などへ理学療法士参加の糸口を探してまいりたいと思います。

* 本意見交換会は、まん延防止等重点措置がとられる以前、かつ県下にてコロナ感染者数が急増する以前に行われたものです。



FAXニュース配信について

◇広報班では研修会などのご案内を G!MP ニュースとして会員各施設に FAX で配信しております。

現在 FAX が届いていない施設や登録番号が変更された施設の代表者の方はお手数ですが、下記までご連絡頂きますようご案内申し上げます。

また代表者(宛名)が変わられた施設もご連絡頂きますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

県士会ニュースおよびホームページへの掲載依頼について

県士会ニュースと県士会ホームページへ掲載を依頼される場合は、広報部広報班までご連絡ください。原稿は、WORDまたはテキスト形式を基本とします。PDFファイルへも対応は可能ですが、適切に印刷(掲示)されない場合があります。また掲載が適切ではないと判断された場合には、ご意向に添いかねることもありますのでご了承ください。

またご不明な点やご希望等ございましたら、下記までご連絡ください。

宮城県理学療法士会 広報部広報班

宛 先: 〒981-3341 富谷市成田1丁目3-1

仙台リハビリテーション病院 リハビリテーション部 佐々木友也 高橋 歩

TEL : 022-351-8118 FAX : 022-351-8126

E-mail: news.edit@pt-miyagi.org

次号県士会ニュース締切: 2021年10月10日まで

発行日 : 2021年5月14日
発 行 : 一般社団法人宮城県理学療法士会
代表者 : 渡邊 好孝
編 集 : 佐々木友也 高橋 歩
印 刷 : 合同会社P・プログレス
〒983-0021 仙台市宮城野区田子2-33-17

